

## 2008年5月8日01時45分頃の茨城県沖で発生した地震 の震源要素の更新等について

2008年5月8日01時45分頃の茨城県沖の地震の震源要素の暫定値\*1は、以下のとおりです。

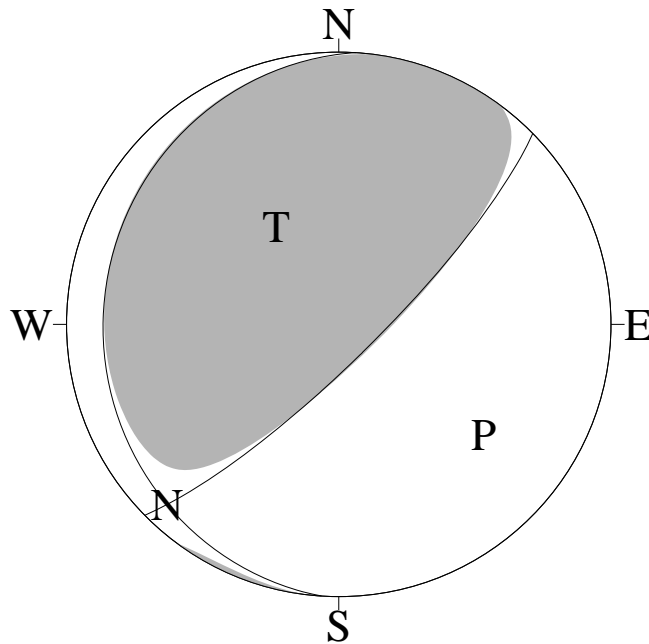
マグニチュード	7.0
深 さ	51km
緯 度	北緯 36度13.7分
経 度	東経 141度36.5分

また発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートとの境界で発生した地震と考えられます（別紙参照）。

\*1 地震発生後、なるべく迅速に震源を決め「速報値」として発表する。さらに、数多くの観測点のデータを用いて精査した結果を「暫定値」として発表している。  
なお、最終的なカタログとして、数ヶ月後に「確定値」を公表している。

# 発震機構解 [ C M T 解 ] ( 暫定 )

2008/05/08 01:45



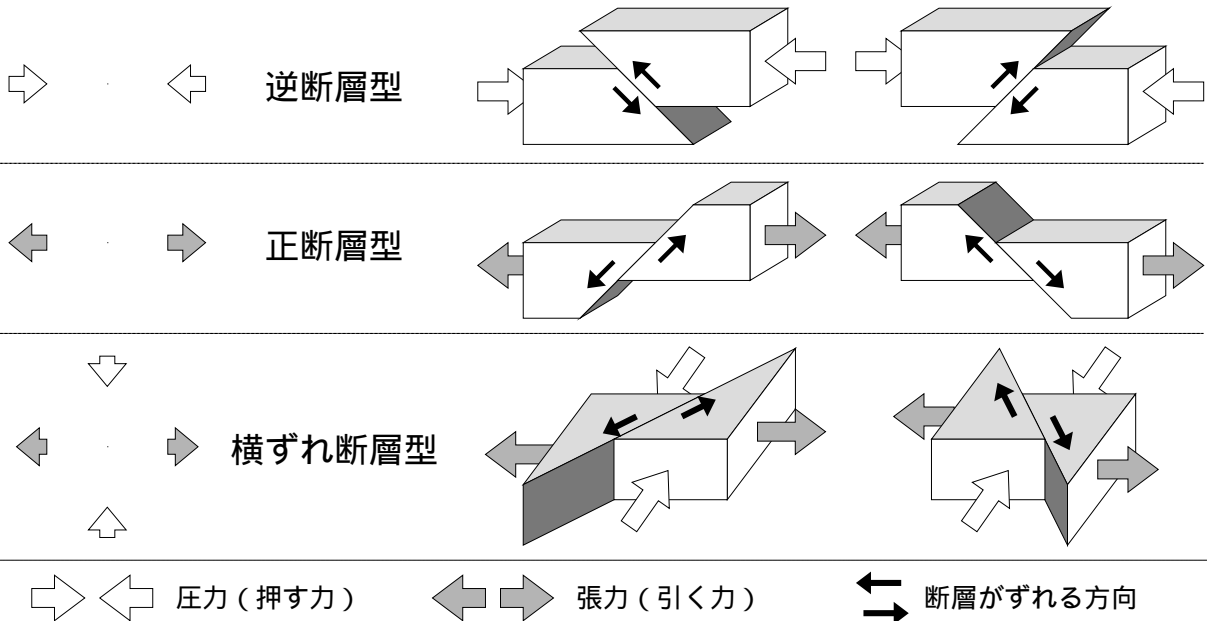
## 北西 - 南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

Pは圧力軸、Tは張力軸の方向を示す。(下半球等積投影)

### 発震機構解 [ C M T 解 ] について

地震波形には、地震時に働く力の特徴があらわれます。  
また、地震時に働く力の向きは、断層の型により異なります。  
C M T 解は、これらの性質を用いて地震波形から断層面を推定するものです。

以下に、発震機構解と断層の型の対応関係の典型的な例を示します。



平成20年5月8日10時現在  
気象庁地震火山部

震度1以上を観測した余震の回数(本震を含まない)

2008年5月8日

時間帯	回数
01:45～02:00	2
02:00～03:00	4
03:00～04:00	1
04:00～05:00	1
05:00～06:00	1
06:00～07:00	1
07:00～08:00	0
08:00～09:00	0
09:00～10:00	0
合計	10